

## 登園許可が必要とされる感染症

※必ずかかりつけ医の診断を受けてから登園してください。

No.	病名	感染しやすい期間	登園のめやす
1	はしか(麻疹)	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過していること
2	インフルエンザ(様疾患)	発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い	発症した後5日経過し、かつ解熱した後2日経過していること(乳幼児にあつては、3日経過していること)
3	新型コロナウイルス感染症	発症後5日間	発症した後5日経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過すること ※無症状の感染者の場合は、検体採取日を0日目として5日を経過すること
4	風しん(三日はしか)	発しん出現の7日前から7日後くらい	発しんが消失していること
5	水ぼうそう(水痘)	発しん出現1～2日前から痂皮(かさぶた)形成まで	すべての発しんが痂皮(かさぶた)化していること
6	おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日経過し、かつ全身状態が良好になっていること
7	結核	—	医師により感染の恐れがないと認められていること
8	プール熱(咽頭結膜熱)	発熱、充血等の症状が出現した数日間	発熱、充血等の主な症状が消失した後2日経過していること
9	流行性角結膜炎	充血、目やに等の症状が出現した数日間	結膜炎の症状が消失していること
10	百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失していること又は適正な抗菌性物質製剤による5日間の治療が終了していること
11	腸管出血性大腸菌感染症(O157、O26、O111等)	—	医師により感染のおそれがないと認められていること
12	急性出血性結膜炎	—	医師により感染の恐れがないと認められていること
13	侵襲性髄膜炎菌感染症(髄膜炎菌性髄膜炎)	—	医師により感染の恐れがないと認められていること
14	溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間が経過していること
15	マイコプラズマ肺炎(うつる肺炎)	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
16	手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
17	りんご病(伝染性紅斑)	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと
18	ウィルス性胃腸炎(ノロ、ロタ、アデノウィルス等)	症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排出しているので注意が必要)	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
19	ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の中に1か月程度ウイルスを排出しているため注意が必要)	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
20	RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
21	帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発しんが痂皮(かさぶた)化していること
22	突発性発しん症	—	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと

感染しやすい期間を明確に提示できない感染症については(—)としている。

※ 登園する際は、No.1～13までは医師の意見書(登園許可)が必要です。No.14～22までは医師の診断に基づき保護者記入の登園届を提出してください。

※ 上記以外に、アタマジラミ症、疥癬、水いぼ(伝染性軟属腫)、とびひ(伝染性膿痂疹)、B型肝炎についても、保育施設において特に適切な対応が求められる感染症ですので、保育園の指示を仰いでください。